桃山学院大学

FD NEWS
2013.3
Vol.2
Faculty Development

委員長挨拶

全学FD推進委員長
副学長　経済学部教授　**竹原　憲雄**

2013年度入試の全国的な志願動向について、地元・安全志向が強まる一方で、どんな教育を受けられるかで大学を選ぶ受験生が確実に増えているといわれています。そして選ばれる大学であるためには、今後、教育の質がますます重要になると指摘されています（「朝日新聞」2013年２月15日）。この教育の質の改善・充実を図っていこうというのが、FD活動であることは言うまでもありません。ですから選ばれる大学であるためには、不断のFD活動が求められています。

今年度の全学FD推進委員会は、教育活動の活性化に向けて新たな活動に取り組んできました。まず、2013年度からの授業改善のための「学生による授業評価アンケート」を改訂しました。次に、双方向教育の充実を目的に、TA制度の「申し合わせ事項」を制定し、同時にSA／TA制度の運用事項をきちんとルール化するための「ガイドライン」を策定しました。さらに、「教員対象アンケート」を実施し、その結果を参考に、全学FD講演会を開催したほか、全学FD委員会で取り組むべき課題などを抽出し、今後のFD活動にも生かしていきます。また、この間FD活動について、全学から貴重なご意見やご支援を得ました。

来年度は、各学部のFD委員会との連携を深め、認証評価にも対応していこうと考えています。教職員の皆様の一層のご協力をお願いいたします。

もくじ contents

■ 委員長挨拶
■ 2012年度授業改善のための「学生による授業評価アンケート」実施報告
■ SA（スチューデント・アシスタント）・TA（ティーチング・アシスタント）制度紹介
■ 特集「SA（スチューデント・アシスタント）経験を語る！」
■ 2012年度活動報告
全学FD講演会
教員対象アンケート
授業改善のための「学生による授業評価」アンケート改訂
SA／TA制度
2012年度全学FD推進委員会
外部機関研修参加
2012年度全学FD推進委員会メンバー

2012年度　授業改善のための「学生による授業評価」アンケート実施報告

「学生による授業評価」の目的は、授業に対する学生の率直な意見を聞き、学生と教員が協力して「わかりやすく質の高い授業」を作りあげ、教育改革（カリキュラム改革）等を進めていくことにあり、アンケートに期待されることは以下の二つです。

①個々の教員が主体的に「わかりやすく質の高い授業」を形成しようとする活動に資すること。

②学生に授業を真摯に評価する権利を与えると同時に、自らの受講態度を自己評価する義務を課し、積極的に授業に出席し学ぼうとする意識と姿勢を喚起することです。

これらが相互に関連しあって一層の授業改善が進められるものと考えており、多様な学生の意見に耳を傾け、学生とともに「わかりやすく質の高い授業」を作りあげていくことが教員に求められています。

◆2012年度春学期実施状況

実施期間：2012年7月2日～ 7月14日

実　施　率：実施対象科目709科目中677科目実施　実施率95.5%

回　答　率：52.9%

所見提出率：41.5%

◆2012年度秋学期実施状況

実施期間：2012年12月3日～ 12月15日

実　施　率：実施対象科目854科目中803科目実施　実施率94.0%

回　答　率：46.5%

所見提出率：42.5%

科目毎の授業評価をクロス集計した結果のほか、自由記述については全体的に内容を項目毎に分類し集計したものを、本学ホームページ（情報公表→本学の取り組み→学生による授業評価）で公開しています。（学内からのアクセスのみ可能）

自由記述の中で特に学生から改善意見の多かった項目（A「板書・パワーポイントの見にくさ」、B「私語への対応」、C「授業担当者の話し方」）のうち、Bについては特に大人数クラスでの問題としてあがっており、こうした状況での対応は科目担当教員の個人的な努力の限界を超えているとの声も多かったため、教務委員会に対し、大人数クラス解消に向けた検討を依頼しました。

また、A、Cを含む学生からの様々な要望に応えるため、本学オリジナルではありませんが、授業改善のための参考資料として、北海道大学作成のFDマニュアルの付録『授業をよくしましょう』を専任・兼任の全教員に配布して活用を促しました。一人ひとりの授業改善の意識が、大学全体の教育改善へと結びつくものと期待しています。

SA（スチューデント・アシスタント）TA（ティーチング・アシスタント）制度紹介

2009年度から開始したSAトライアルを経て、2012年度は「SA制度申し合わせ事項」に基づいた運用を行ってきました。より良いSA制度とするために、次年度も引き続き検討課題に取り組んでいきます。

また、今年度はTA制度について2013年度からの導入に向けた検討を重ねて参りました。SA・TA制度に関するガイドラインも定め、SA・TA制度活用により教育効果を高めることができるよう今後も環境整備に努めて行きます。

◆SA制度

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにSA（スチューデント・アシスタント）制度を導入する。これは、学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図ることを目的とする。

◆TA制度･･･2013年度から運用がはじまります。

〈目的〉桃山学院大学では、FD活動の一環として授業改善のためにTA（ティーチング・アシスタント）制度を導入する。これは、本学大学院学生が教育活動に参加することにより、教える側と教えられる側双方の力量の向上を図るとともに、本学大学院学生の教育研究職に就いた際に必要となる教育力の獲得に寄与することを目的とする。

2012年度SA制度申請授業

学　部	授　業　名	開講時期	授業担当者（責任者）
国際教養学部	英語特待生留学プログラム	春学期	佐々木英哲
	映像制作実習	秋集	南出　和余
	大学入門セミナー	春学期	境　真理子、和栗　珠里
社会学部	※データ解析実習	秋学期	岩田　　考
	※社会調査A	秋学期	岩田　　考
	※社会心理学	秋学期	岩田　　考
	社会福祉フィールドワーク	通期	竹内　靖子
法学部	（合同）基礎演習	通期	早川のぞみ
経済学部	演習Ⅲ	通期	吉田　恵子

※の授業は、申請のみ

2012年度TAトライアル制度申請授業

学　部	授　業　名	開講時期	授業担当者（責任者）
経済学部	経済基礎A	春学期	吉田　恵子

特集「SA（スチューデント・アシスタント）経験を

①「大学入門セミナー」におけるSA制度の利用 ―上級生から下級生へ伝える「有意義な大学生活の過ごし方」―

国際教養学部准教授　和栗 珠里先生
中川 美弥さん（国際教養学部４年次）
新田 華枝さん（国際教養学部４年次）
河合 亜樹さん（国際教養学部４年次）

――どの科目でSA制度を利用されましたか？

●**和栗先生**：「大学入門セミナー」という１年生の基礎演習科目の２回目の授業で、大学での授業の受け方や大学生活の過ごし方などについて、先輩の体験に基づいた話を聞く機会として導入しました。

――SAとしてどんな仕事をされましたか？

●**中川**：自分のこれまでを振り返り、有意義な大学生活の送り方について話しました。いろいろな異文化交流をしましたが、とくにインドネシアのワークキャンプでの経験は、就職活動にも役に立ったと思います。

●**河合**：私は図書館司書の資格を取りたくて大学に入学したので、そのことを第一に説明しました。また、情報センターの学生スタッフとして学内で働いたり、イタリア語の短期留学プログラムに参加したりした体験について話しました。部活動・サークル活動についても紹介しました。

●**新田**：私は、日本語教員の資格について話しました。日本語教員になるための授業を履修して、海外の大学で３週間の日本語教育実習をしたことなどです。ただ、私はヨーロッパ・アメリカ文化専修なのですが、日本語教員資格の科目は主にジャパニーズ・スタディーズ専修のものになるので、卒業に必要な単位以外に多くの単位をとらなければなりませんでした。

●**中川**：私は反対にジャパニーズ・スタディーズ専修ですが、イタリアに興味が湧いてヨーロッパ・アメリカ文化専修のゼミに入った結果、ジャパニーズ・スタディーズの単位をそろえるのに苦労しました。だから、後悔も込めて、履修や専修の選び方に注意するように言いました。

――話してみてどうでしたか？

●**河合**：緊張しましたが、後輩たちが真剣に聞いてくれたので、嬉しかったです。

●**新田**：うまく話せるか不安だったけれど、少し自信がつきました。人前で話した経験は、就職活動の面接に活かすことができました。

●**中川**：私が１年生のときにも先輩の話を聞きたかったです。大学では、自分で動かなければ得られない情報がたくさんあって、あとから知ることも多いから、こんなふうに教えてくれたら、計画的に大学生活を充実させられると思います。

●**和栗先生**：先輩の話は実感がこもっているし、教員では気づかないような視点からの話もしてくれたので、とても効果があったようです。

――SAのみなさんも、自分を振り返ったり、SAの経験を活かしたりすることができたわけですね。どうもありがとうございました。

語る！」

聞き手：経営学部教授　信夫千佳子

②「基礎演習」（合同形式）におけるSA制度の利用 ―模擬裁判の経験を通して、人に伝えることの楽しさや難しさを学ぶ―

法学部講師　早川 のぞみ先生
榎本 汐莉さん（法学部４年次）
長井 春香さん（法学部３年次）
明浄 貴幸さん（法学部３年次）
山口 勝嘉さん（法学部３年次）
松下 知美さん（法学部２年次）

――どの授業でSA制度を導入されましたか？

●**早川先生**：法学部では、１回生対象の基礎演習で、SA制度を活用し、模擬裁判教室で合同形式の模擬裁判演習を実施しました。その目的は、１回生に対して模擬裁判を見聞きさせることで、裁判の流れを理解させ、法律が裁判の中でどのように扱われるのかを学ばせることにあります。２回生以上のSAの学生には、教員指導（大久保正人先生〔刑事訴訟法〕）の下、模擬裁判を作成・実演してもらいました。

――SA業務を通じて学んだことは？

●**榎本**：法学部では裁判を実際に経験することがないので、これを模擬的な形で学ぶことで、裁判制度がより理解しやすくなりました。

――難しかったことはありますか？

●**榎本**：１回生の学生は、大体が年下なのですが、模擬裁判の内容をどれだけ分かっているのか、彼らの様子を見ながら裁判劇を実演していくのがちょっと難しかったですね。

●**早川先生**：模擬裁判は、一般の演劇とは異なって、法律知識が関係しますからね。

●**松下**：私は２回生なので、１回生に１番近い立場で、どう噛み砕いたら人により分かりやすく教えられるか考えました。人に教えることによって自分も新たに学べたと思います。

●**山口**：今回、模擬裁判において、知識の少ない学生に教える立場に回ったことで、「教えることの難しさってここにあるのか」、「こう伝えたいのに相手になんでこれが伝わらないのか」といったことを実際に体験できたことは、私にとって大きな経験になったと思います。

――他に感想はありますか？

●**明浄**：僕は解説を担当したのですが、大勢の人の前で喋ることを学べたと思います。人前でハキハキ喋ることは、社会に出てから必要なスキルの一つだと思います。だから、この模擬裁判を通して得た経験をこれからの就職活動に活かしていければと思っています。

●**早川先生**：明浄くんは模擬裁判の進行役として、裁判手続きの流れや裁判劇に登場する法律用語の意味を解説する役割を担いました。

●**長井**：私は刑法が好きでSAに参加しました。SAの活動を通して、先生と関わる機会が多かったので、裁判劇などで分からないことなどを、休憩時間にお聞きすることもあり、学ぶことがたくさんあったと思います。刑事訴訟法は、教科書を読んだだけでは理解するのが難しい部分がいっぱいあると思いますから。

――学生が成長した点は見受けられましたか。

●**早川先生**：このSA制度は、１回生とSAが教え合う関係を、またSA同士の間でも互いに教え合う関係を作り出しました。学年を超えて主体的に学び合う経験は、学生自身にとっても大切な学びの機会になったのではないかと思います。

2012年度活動報告

全学FD講演会

【第１回】
「学習支援センターの可能性 ―地方文系私立大学における初年次教育―」

日時：2012年11月16日（金）10：00～12：00

広島修道大学学習支援センター長の亀崎澄夫先生をお迎えして、学習支援センターの可能性について講演いただきました。初年次教育の目的は大学によりさまざまですが、広島修道大学での試行錯誤をしながらの“教職協創”による取り組みの事例はとても示唆に富んだ内容でした。参加者からは次々と積極的な質問がなされ、予定時刻を超えて、実り多い講演会となりました。

【第２回】
「授業評価アンケートの効果的実施・活用方法 ～授業実践の省察の機会として～」

日時：2013年2月22日（金）11：00～13：00

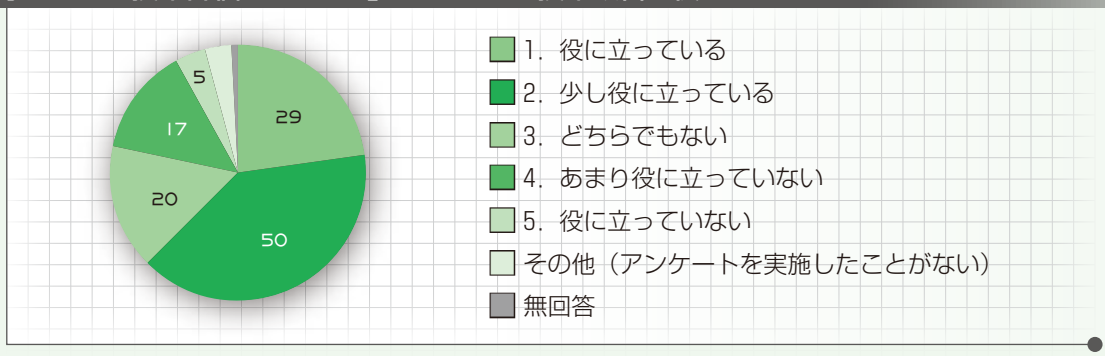
愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室副室長の佐藤浩章先生をお迎えして、授業評価アンケートの効果的実施・活用方法について研修を行いました。実際に授業を担当する専任教員、兼任講師の他、職員からの参加もあり、授業評価アンケートの意義と特徴について学び、実際のアンケート結果を基に、学生の学習を促す要因、促していない要因について分析する手法を学びました。ペアワークなども取り入れた２時間の研修は充実し、参加者からは「授業改善の課題が明瞭になった」「学生の学びを促進する授業評価の在り方について認識を深めることができた」などの感想が寄せられました。「教えること」よりも「学ぶこと」に焦点をあてた質問になっているか等、授業評価アンケートを見直すポイントも参考になりました。

全学FD推進委員会では、今後もこうした研修の機会を設けていきたいと考えています。

教員対象アンケート

今年度委員会では、本学におけるFDの課題を抽出し、より一層の授業改善、教育改善の方策を探るため、専任・兼任講師を対象にアンケートを実施しました。 **※教員：384名中125名分回収**

1.「学生による授業評価アンケート」は、あなたの授業改善に役立っていますか？



2. 授業を行う上で何か困っていることはありますか？（複数回答）

項　目	人数	項　目	人数
学生の遅刻・欠席	40	成績評価のつけ方	7
学生の私語	38	学生とのコミュニケーションの取り方	4
出席の管理	25	特に困っていることはない	22
大人数クラスのコントロール方法	25	オンラインシステムの利用	4
小テストの採点	8	教員控室の利用	3
試験の採点	11	講義計画（シラバス）の書き方	2
講義準備	6	レポートの評価	1
学習障害の学生への対応	8	その他	25
合　計			229

アンケート結果を参考に、今後、公開授業（授業参観）実施に向けた検討や、全学FD推進委員会で取り組むべき課題の抽出、FD講演会・FD研修のテーマ策定等に生かしていきます。

授業改善のための「学生による授業評価アンケート」改訂

2012年度は、担当教員が学生の実態を把握し、授業の問題点を抽出して、授業にフィードバックできるような授業評価アンケートを目指し、改訂作業に取り組みました。（2013年度より改訂実施）

SA ／ TA制度

以下の規程等について検討を行いました。

「SA（スチューデント・アシスタント）制度に関する申し合わせ事項」（改訂）
「TA（ティーチング・アシスタント）制度に関する申し合わせ事項」制定
「SA（スチューデント・アシスタント）および「TA（ティーチング・アシスタント）制度に関するガイドライン」の策定

2012年度全学FD推進委員会（全13回）を開催しました

2012年度は、“FD活動”の「見える化」を推進するとともにFDの研鑽に努めるため、主に以下のような課題に取り組みました。

1．「学生による授業評価アンケート」実施方法や設問の見直し
2．「学生による授業評価アンケート」を授業改善に繋げる取り組み
3．TA制度の申し合わせ策定
4．FD講演会の開催
5．学内FD研修会の実施
6．外部FD講演会や研修会への積極的参加
7．各学部教授会FD委員会との連携検討
8．「FD NEWS」の発行

外部機関研修に参加しました

2012年 6 月23日（土）
FD推進ワークショップ「私立大学の教職員の職能開発」（日本私立大学連盟）
2012年 6 月23日（土）
第７回FDフォーラム「大学教育の質的向上を目指して－TA・SA制度の有効活用－」（関西大学教育開発支援センター）
2012年 6 月29日（金）
主体的な学びへ導く大学教育とは（ベネッセ教育研究開発センター）
2012年 8 月19日（日）
大学生研究フォーラム「グローバルキャリアの時代に大学教育は何ができるか」（京都大学）
2012年 8 月27日（月）～ 29日（水）
日本リメディアル教育学会第8回全国大会（立命館大学）
2012年12月 8 日（土）
第８回FDフォーラム「授業支援ツールの活用－授業種別のあり方」（法政大学教育開発支援機構 FD推進センター）
2013年 1 月27日（月）
ネットワーク時代の大学教育改善－学びと教えの相互進化を持続させる－（京都大学）
2013年 2 月24日（日）
大学コンソーシアム京都第18回FDフォーラム「学生が主体的に学ぶ力を身につけるには」（立命館大学）
2013年 3 月 7 日（木）
富士通「イノベーションの核となる先端的ICT事例の現場研修」
2013年 3 月14日（木）
第19回大学教育研究フォーラム（京都大学）

2012年度全学FD推進委員会構成メンバーを紹介します

〔委員長〕 竹原　憲雄（副学長、経済学部）
〔委　員〕 和栗　珠里（国際教養学部）、石田あゆう（社会学部）、早川のぞみ（法学部）、津田　直則（経済学部）、信夫千佳子（経営学部）、田中志津子（共通教育協議会選出、法学部）
〔事務局〕 宮谷真由美（学長室）、辻川　和子（学長室）

桃山学院大学
St. Andrew's University
桃山学院大学全学FD推進委員会
〒594-1198　大阪府和泉市まなび野１－１
TEL　0725-54-3131
e-mail：zfd-momo@andrew.ac.jp
発行日／2013年3月25日